

6、第5学年の取り組み

(1) 算数チャレンジの取り組み

時 期	内 容
1 学期始め頃 (算数のオリエンテーションの時)	<ul style="list-style-type: none"> 算数チャレンジの目的と方法を伝える。 宿題として算数チャレンジに取り組ませる。
1 学期の中頃	<ul style="list-style-type: none"> 朝の準備に、「算数チャレンジで取り組んだ教科書を机の上を開く」項目を入れ、取り組みを共有できるようにする。
1 学期の終わり頃	<ul style="list-style-type: none"> 算数チャレンジを自学で取り組む児童の姿を紹介する。
2 学期の始め頃	<ul style="list-style-type: none"> 算数チャレンジの目的と方法を再確認する。
2 学期の中頃	<ul style="list-style-type: none"> 算数チャレンジを前提とした授業展開の定着を図る。 習熟(授業後半)の時間に学習活動を選択できるようにする。 「計算ドリル、タブレットドリル、ミニ先生、オリジナル問題作り」
1、2 学期を通して	<ul style="list-style-type: none"> 算数チャレンジの目的や方法に沿っている、または、それを生かして実践している児童の教科書やノートを紹介し、算数チャレンジの価値を適宜共有する。(家庭との共通理解)

(2) 算数チャレンジに取り組んだ成果(◎)と今後の課題(●)

◎児童が学習に対する見通しをもち、自身の理解度を把握して授業に臨む姿が見られた。それにより、「この単元は得意だから、友達にたくさん説明したい」「分からない所は質問して正しく理解しよう」など、個人で設定した目標に向かい学習を進めることができた。

◎算数チャレンジを行ったことで、他教科(国語科、社会科、体育科など)でも予習的学習に取り組む児童の姿が見られた。

●取り組み状況に個人差があることや、取り組み状況の底上げが難しいこと。

●アンケート結果を見ると、肯定的な評価が多数を占めている。しかし、算数科の成績の大幅な向上(特に思考・判断・表現)は見られていない。以上のように、児童の自己評価と算数の成績にズレが生じていること。

(3) 目指す児童の姿として参考となる資料

資料1

資料2

【振り返りを書いた算数ノート】
 学習を終えた段階での理解度(A、B、C)を、根拠をもとに文章で表現している。算数チャレンジで取り組んだ時からの変容や、既習事項との繋がりに関する気付きを表現する児童の姿も見られている。

大きな体積

1 たて4m、横3m、高さ2mの直方体の体積を求めましょう。

2 1辺が1mの立方体の体積を1m³とします。何個の立方体で直方体の体積を求めましょう。

3 1m³は何m³ですか。

資料3

体積が1m³の立方体の積み重ねを右の図のようにならべ、これをまた積み重ねて直方体をつくりましょう。

2 次の直方体や立方体の体積を求めましょう。

3 右のような直方体の体積を求めましょう。

資料4

【算数チャレンジをした教科書】

分かっていること・聞かれていること・大切なところ・予想などを、線を引いたり言葉で表現したりすることができている。この段階で理解できた体積の求め方までは問題を解き、単位換算については予想を立てている。(資料3)

練習問題を教科書に解いている児童もいる。学習内容が理解出来ている児童については、同じ問題を授業の中でより速く正確に解くことや、発表や友達に教える活動を通して、知識を積極的に活用することを促している。(資料4)

① 教科書の例題を参考に、自分で問題を考えた。

② 80% = 0.8倍

③ 1000000cm³ = 1000000dm³

資料5

① 月々1000円を20回払いする。

② くらげの量

③ くらげの量を求める。

④ くらげの量を求める。

資料6

【算数チャレンジをした自学ノート】

最初は苦手意識があった割合の問題も、パターンを理解することで「どんどん得意になった」と自分の得意不得意を理解することができた。不得意な部分を克服して学習に臨もうとする心構えが感じられる。(資料5)

分かる問題と分からない問題を、自主学習を通して分類することができている。分からない問題については、「授業の中で正しく理解したい」という目標をもち、学習に臨むことができています。(資料6)

① 前のテストのプリントをやり直して間違えた問題を復習する。

② 5/12 + 1/3 = 5/12 + 4/12 = 9/12 = 3/4

③ 7/14 + 5/14 = 12/14 = 6/7

④ 5/6 + 1/12 = 10/12 + 1/12 = 11/12

⑤ 時間をかき分けました。

資料7

① 今日、た割合の百分率を使って問題を作り、とく。

② 定員が40人のコンサートがあります。現在、希望者は36人います。希望者の人数は、定員の何%ですか。

③ 問題を自分でつくってとく。

④ くらげの量を求める。

⑤ くらげの量を求める。

資料8

【授業の復習をした自学ノート】

授業やテストを通して、帯分数の足し算に課題があることを実感し、それを克服するために自主学習で取り組む姿が見られた。時間に限りがない家庭学習の中で「落ち着いて解いたらできる」ことに気付くことができた。(資料7)

授業で習った内容を使って、オリジナル問題を作成した自主学習。授業の中で取り組み、問題を解き合う児童もいる。友達どうして正しい答えを解説する場面も見られた。問題作成や解答作成の場面で数や言葉により丁寧に向き合う必然性が生まれている。(資料8)



資料9



資料10

【授業の様子】

算数チャレンジで予習しているため、基本問題を解き終えた児童はランダム交流を行っている。交流を通して、自分の考えの確認や修正を全体交流までに繰り返すことで、知識の定着を図っている。(資料9)

全体交流は授業の中盤までに行うことを意識して授業設計をしている。(資料10)